新潟いの健ニュース

働くもののいのちと健康を守る
新潟県センター

〒950-0088　新潟市中央区万代
3-4-12　新潟地区労連内
電話・FAX　025-247-3958
相談ダイアル080-7509-2234

ホームページ
リニューアルしました。

厚生労働省の事業
「過労死防止のための啓発授業」

＊啓発授業とは？

過労死等防止対策推進法に基づいて制定された「過労死等防止大綱」では、「過労死等の防止のためには、若い頃から労働条件をはじめ、労働関係法令に関する理解を深めることも重要」とされています。

厚生労働省は、生徒・学生等に対して、労働問題や労働条件の改善等について理解を深めてもらえるよう、労働問題に関する有識者及び過労死のご遺族を講師として学校に派遣し、啓発授業を実施する事業を平成28年度から実施しています。

過労で命を落としたり健康を損なうことは、ご本人はもとより、そのご家族やご友人にとって計り知れない苦痛であるとともに、社会にとっても大きな損失であり、こうした事態を何としても防いでいかなければなりません。これから社会に出て行く生徒・学生がこの問題について理解を深め、自分を守るための知識をつけられるようこの事業を実施しています。

＊新潟県内での取り組み

2023年10月19日、20日　県立加茂高校

（報告　いのけん新潟センター金子修副理事長）

講　師　　金子修弁護士

遺族講話　　新潟市水道局パワハラ自死事件　遺族

二日間にわたり、計６限の授業を実施。水道局事件遺族のお話が秀逸であった。準備もよくされていた。

涙する生徒もみられた。全体的に質問も良く出て、活発な意見交換もあり、充実していて良かった。

2023年12月19日　県立大学

（報告　いの健新潟センター　小澤薫理事長）

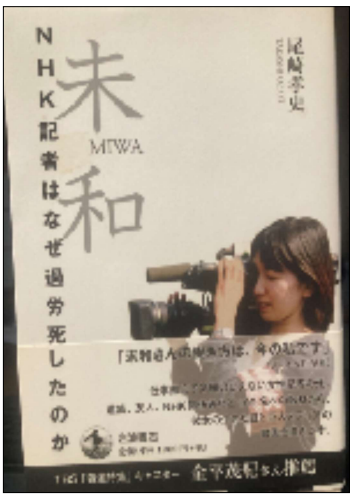
県立大学にて　学生３０名参加で実施

元NHK記者で31才で過労死した佐戸末和さんのご遺族にお話しいただく。前週に労災の仕組みなど就業規則や労基法についてについて事前学習を行い、被災家族の実態についてお話いただいた。

お話後　質問感想など３名の学生よりのべてもらった。直接話を聞く機会がないので身近に感じてもらえたのは良かった。

＊学生の感想より（一部抜粋）

〇今まで過労死と言う単語を聞いても、私自身がまだ社会に出て仕事をしたことが無いために、仕事のし過ぎが死につながることが現実的に感じられませんでした。しかし今日お話を聞いて、過労死が環境次第で誰にでも起こり得ることだと気がつきました。



〇労災だったのに上司が労災と認めていないというのがとてもつらいことだと思いました。男性の中で女性が不憫な扱いをされていたことが、男女平等とはかけ離れていると感じました。

〇人のいのちよりも大切な仕事は無いという言葉を聞いて、どれほど仕事にやりがいを持っていても身体を壊してまで働き続けることは自分の未来を閉ざすだけでなく、家族まで悲しませることになると分かりました。

〇末和さんが働いていたNHKの労働環境の悪さに衝撃を受けました。きっと本人も長時間労働をしたくなかったろうに、仕事から逃げられないような圧がかけられていたのだと思いました。そういう環境がなかなか浄化されないのは残念だけど、社員の声が届くように声を上げ続けることが大切であると思いました。

新潟アスベスト弁護団が結成されました。

アスベストは石綿とも言い、鉱物の一種で、細さはヒトの髪の毛の1000分の１から2000分の１で、肉眼ではその一本一本を見分けることはできません。魔法の物質といわれ、断熱性や絶縁性に優れ、どんな形にでも加工しやすいのが特徴です。日本では1930年から輸入が開始され、耐火性を生かしセメントにまぜて、建物の材料に多く使われてきました。中皮腫や肺がんの原因になるなど、きわめて強い毒性があることが明らかになり、日本ではアスベスト規制はヨーロッパ諸国にくらべて10年～20年遅れていて、すべての建材で全面禁止になったのは2011年3月1日です。アスベスト疾患はアスベスト繊維を吸い込むことによって発病します。発病しない方もいますが、アスベストを吸い込んでから20年～40年たって病気にな

る方もいます。日本ではこれからアスベストを大量に含んだ建材を使った建物の解体がピークを迎え健康被害が広がることが心配されています。

この間、健康被害を受けた方への救済制度を整備するため、様々なたたかいがされてきましたが、今まで救済の対象になりにくかった、一人親方・中小事業主の方への損害の迅速な賠償を実現するための建設アスベスト給付金制度が２年前にできました。全国では3000人程度の方が救済を受けていますが、建材メーカーは責任を認めていません。

現在、建設業や造船所で働いて被害を受けた方やご遺族が裁判で闘っています。新潟県内にも新潟鐵工の造船所などの被災者救済のための裁判闘争を広げ、被災者救済と再発防止のために「アスベスト弁護団」が結成されました。いのけん新潟センターでも支援の輪を広げ、被災者の救済と被害防止のために取り組んでいきます。

新潟市内保育園でアスベスト飛散が明らかに

新潟市は、市立七浦保育園（市西蒲区越前浜）の遊戯室天井から危険性の高いアスベスト（石綿）を検出したが「飛散がないことを確認」したと“安全宣言”しました。2023年10月23日に天井の照明を外部業者が交換したところ、天井の吹付材が一部剥がれ落ち、分析した結果アスベストが検出されたということです。しかし園舎に飛散はなかったということです。また北区の太田保育園ではアスベスト含有建材の穴あけ作業を伴う園舎内の配線・通信機器の設置工事にあたり、十分な対策が取られていなかったとして、保育場所を近隣の下黒山公民館に変更し、現在粉塵の調査を行っているということです。

国の対策を受けて、市内の市有施設1964（当時）については、2005年、06年度に吹付材の調査を実施し、156施設で使用が確認され65施設で除去工事を行い、13年度までに完了させたということですが、七浦保育園は１５６施設には含まれていませんでした。（太田保育園は不明）市はすべての市有施設について調査をやり直すとしています。

いのけん新潟センターでは、新潟地区労連と共同し、調査の結果とともに対策の強化を求めていきます。

いのけん全国センター総会開催

2023年12月6日、全労連会館2階ホール(リモ ート併用)で開催を開催し、スローガンとして「『健康で安全第一』の担い手をすべての職場で育てよう」を確認しました。参加者は、会場に 45人、リモート参加34人(オブザーバー 2人含 む)でした。

〇峠田和史理事長の開会にあたっての挨拶

＊人間が尊重され安心して働ける職場を

私たちはこの25年間、労災認定の支援、認定基準･働くルールの改善に取り組み、前進させてきました。その法律やガイドラインを守らせ、活かして 仲間のいのちと健康を守っていかなければなりませ ん。いの健全国センターの結成宣言には『･･・働くもののいのちと健康・権利を守り、人間が尊重され、 安心して働ける職場、社会の建設を･･・多くの人々と、 多くの団体とそして多くの専門家と共に積極的に活動することを宣言します』とあります。心と体の『安全を第一』にかかげた労働と生活の実現はなお 一層重要な課題です。その実現に向けて活発な討論をお願いします。

〇1年間の活動のまとめと来年度方針

活動報告

2023年度1年間の活動としては、精神障害の労災認定基準や石綿健康被害救済法改定に対する取り組みを進め、化学物質と健康研究会では、化学物質に関わる症例検討や国が進めている「化学物質の自 律的管理」についての検討を行ってきたことが報告されました。

24年度方針

2024年度方針では、会議を基本的にリアル開催とすること(オンライン併用)を提起。また、職場の担い手育成を重視し第3回カレッジの開催、単産 ･地方センターの交流会、担当者会議を行っていくこと。また、感情労働研究会(仮称)の設置について検討していくことが提案されました。

〇発言より

労災被災者の掘り起しと医療機関の連携

医師不足の深刻 さが問題になって いますが、労災職業病を診る医師も減っています。医療機関の統合や専門医師の引退でじん肺・振動病などの検査や診断ができなくなっています。それによって労災が打ち切りになるケースもあります。医療機関とともに患者の 掘り起しの活動を進め、労災認定を勝ち取ってきた歴史があります。職業病の根絶のためには医療機関の役割は重要です。

＊ほかに、「高齢者の働き方　労災防止」「自衛隊の業務事故とハラスメントの深刻な実態」「理研の雇止め」など8本の発言がありました。